

## 「弘大地理」第30号の刊行にあたって

水 野 裕

1965年に創刊された「弘大地理」も第30号を刊行することになり、いよいよ雑誌としてその重みを感じるようになりました。

本誌は、学生の卒論を世に公表すること、卒業生の交流の場を作ることを目的として創刊されました。

10年前の本誌第20号においてのべたことでもありますが、本誌の生みの親である横山弘先生は常々、「卒業論文のほかに、もっともっと卒業生の寄稿があり、“弘大地理”を通して先輩後輩のつながりをより綿密にしてゆくことが必要である」と云われていました。

本誌の最近10年間の内容を見ると、卒業生の卒業論文に加え、小中高校の現場での教材研究や授業研究の実践報告などが掲載されており、大変喜ばしい限りです。小中高校で教鞭をとっている卒業生は、教育という実務の多忙に追われながらも、それぞれ地道で、しかも特色ある研究を進めているわけで、大変心強い次第です。

このように、「弘大地理」も年々、幅の広い内容のある刊行物として成長して来ましたが、次なる目標に向かって更に飛躍する段階に入ったと思います。卒業生と学生と教官が一体となって、「弘大地理」を更に充実したものに築きあげてゆくことを祈念しています。

なお、最後になりましたが、私がこの10年近く附属小学校や学部の仕事に追われている関係上、本誌の編集は後藤雄二先生にすべてをお願いしており、第30号まで無事つづいたことは後藤先生のお蔭と感謝している次第です。